

森林の多面的機能の総合価値評価に関する研究 ～本庄早稲田の杜を対象として～

M2 康 妮

早稲田大学 大学院 環境・エネルギー研究科

研究背景

高い森林被覆率
年間蓄積量の増加



間伐期の人工林
低い年間間伐量

伐採期の遅れ
利用不足



林業の衰退
公益的機能の低下

量的豊富、質的荒廃

国・公的機関

積極的に整備の推進



国民意見

期待大きい、行動不足

人と森の繋がりが薄くなる

森林価値への認識不足



森林価値

森林多面的機能

- ・経済利益の創出: 物質生産機能
- ・安全な生活の送り出す
 - 水源涵養機能
 - 快適環境形成機能
 - 土壌保全機能
- ・楽しめる場の提供
 - 保健・レクリエーション機能
 - 文化機能
- ・生活環境の保全
 - 地球環境保全機能
 - 生物多様性保全機能

価値認識の向上

整備参加意欲の向上

研究目的

森林の機能と価値を平易かつ明確に表現し、認知・認識の向上の一助とすること

現在の森林の課題

・管理整備不足

・利用目的の不明確

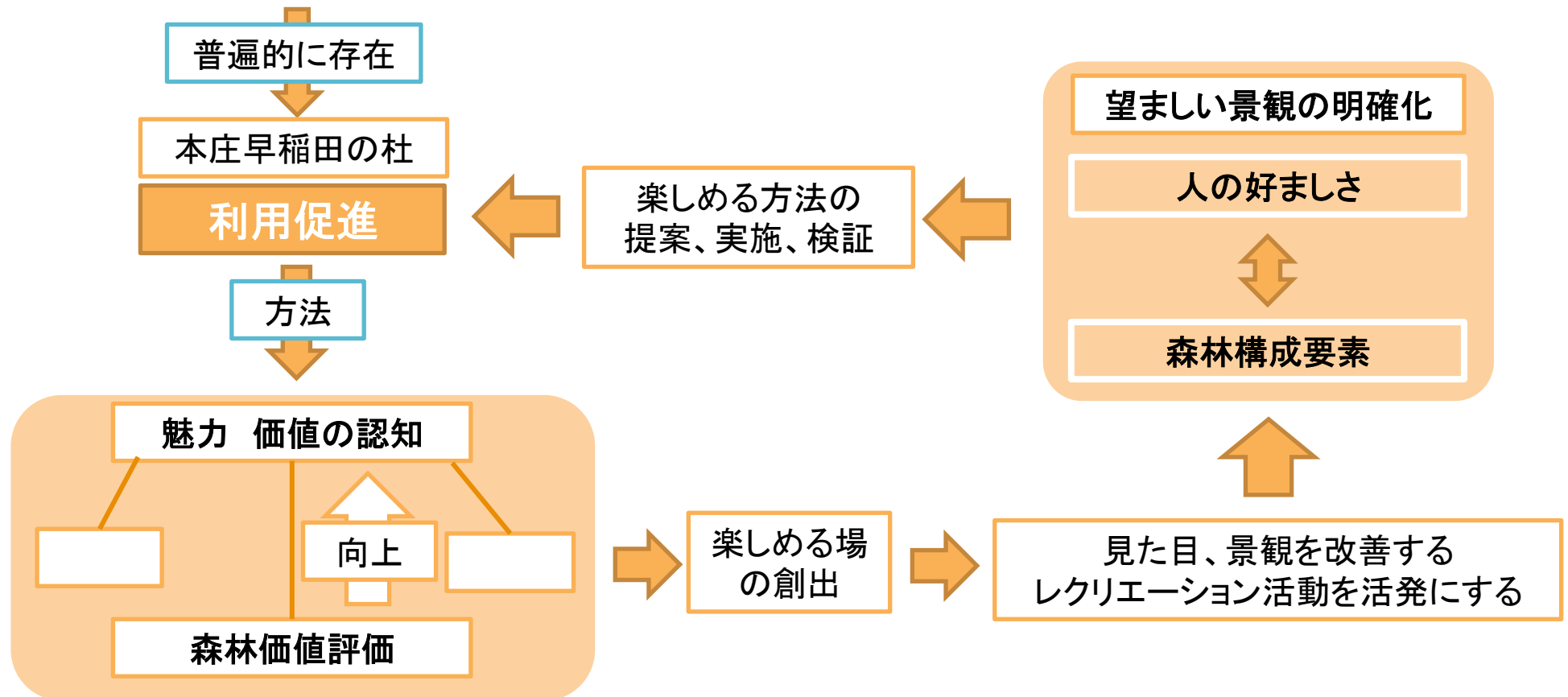
・利用の不足

・利益低下

・土砂災害の形成

・所有者不明

・人手不足



研究対象・研究フロー

研究対象

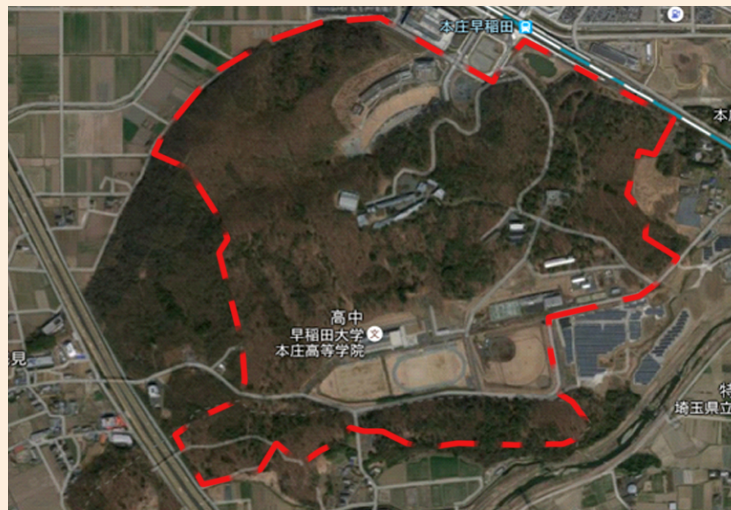


図1 研究対象エリア

埼玉県本庄市のJR本庄早稲田駅近くにある大久保山、浅見山、塚本山からなる緑豊かな丘陵地

対象地域の特徴

- ・90haの雑木林。私有林(ほとんどが大学所有地)
- ・起伏のある散策道
- ・地域のシンボリック存在(過去は薪炭林として利用)
- ・私有林でありながら公共地のような扱い(利用にあたってのルールなどが無い)
- ・生徒(高校生)の安全第一
- ・市民にも利用してほしい?

対象地の現状理解

1. 景観評価

フォトモンタージュ法

森林景観要素の抽出
景観要素の再構築
個別要素調査の実施

景観要素と印象との関係明確化

2. レクリエーション評価(検証)

POMS法

森林散策イベントにより調査

景観を中心としたレクリエーション機能評価の検証

3. 森林を楽しむ利用方法の考案